

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立久里小学校	C : やや不十分である D : 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・全学級で授業研究会や校内自主研修会を実施し、授業改善に努め、学力向上を図りたい。 ・児童の自己肯定感を高める取組やよりよい人間関係作りの取組の継続、地域と連携した体験活動の充実に努めていきたい。 ・運動・スポーツの楽しさを味わわせながら、運動習慣を形成していく必要がある。 ・年間を通して時間外在校等時間の上限を遵守する雰囲気醸成されつつある。今後も業務の見直しを適宜行い、働き方改革を推進していきたい。	
2 学校教育目標	「豊かな心もち、夢の実現に向かって、自律的に活動する久里の子の育成」 ～元気・笑顔・思いやりがあふれる学校～	
3 本年度の重点目標	①学校全体で取り組むポジティブ行動支援の推進 ②特別支援教育の充実推進 ③「児童と向き合う時間を生み出す」ための効果的な働き方 ④保護者・地域と連携し、信頼される学校づくりの推進	

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			
(1)共通評価項目								主な担当者	
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上対策。全職員による共通理解と共通実践	○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童70%以上	・授業の中に意図的に話し合う場面を取り入れる。 ・学びを深めたり広げたりするためにタブレットを効果的に活用する。 ・授業で使った学習計画やワークシートをサーバーに保管し、だれでも利用可能な状態にする。	B	・ベアやグループ、全体で話し合う場面を1日の授業の中で数回ずつ取り入れることができている。 ・タブレット使用に関しては、子どもの実態に応じて各クラスで行っている。 ・授業の資料は校務用サーバーで保管し共有できる状態になっている。	B	・「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童90%であった。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上対策ができていると思う職員が91%であった。	A	・先生方の授業改善の工夫が見られる。ICTを活用し、タブレットを使った授業も見られた。アナログの大切さも感じる。読み・書きの基礎の定着が楽しいにように感じる。 ・授業参観では、子供たちがグループで学び合う場面が増え、積極的な学びができていていると感じた。 ・学力向上のために国際力を身に付けていく。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校は、豊かな心を身に付ける教育活動を行っている」と回答した保護者80%以上。 ○「家庭で、道德の授業で使った資料を読んだり、お友達と話し合っている」と回答した保護者80%以上	・地域と連携した体験活動や学校行事等を行う。 ・平和集会では、6年生が修学旅行で学んだことと発表したり。その後、平和について感想を書かせて、平和への思いが伝わった。 ・6月の教育の日の授業参観で全クラスが道德の授業に取り組み、児童の心の教育に努めている。	B	・地域と連携した体験活動や学校行事等を行う。 ・平和集会では、6年生が修学旅行で学んだことと発表したり。その後、平和について感想を書かせて、平和への思いが伝わった。 ・6月の教育の日の授業参観で全クラスが道德の授業に取り組み、児童の心の教育に努めている。	B	・「わが子は、豊かな心を身に付けることができている」と回答した保護者90%以上であった。子供たちの自己肯定感が高まるような声掛けを意識して取り組んでいたことがあった。 ・「家庭で、道德の授業で使った資料を読んだり、お友達と話し合っている」と回答した保護者50%以下であった。ふれあい道德と授業参観で取り組まれているのは良かったが、もっと家庭で取組むことができる仕掛けが必要である。 ・いじめの授業は毎学年のうちから子どもと取り組んでほしい。	A	・先生方の授業改善の工夫が見られる。ICTを活用し、タブレットを使った授業も見られた。アナログの大切さも感じる。読み・書きの基礎の定着が楽しいにように感じる。 ・授業参観では、子供たちがグループで学び合う場面が増え、積極的な学びができていていると感じた。 ・学力向上のために国際力を身に付けていく。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上	・日常的な児童観察、Qや毎月の「なかなアンケート」を実施し、児童の状況・状態の変化に気付く。 ・気になる児童については、職員同士で密に情報交換を行う。 ・必要に応じてSCやSSWとも連携し、よりよい方向性を見出す。	B	・担任は、昼休みと一緒に遊び回り、日記を書かせるなど、日々児童達との交流を図り、良好な関係を作れることを心掛けている。 ・児童理解協議会などで担任から報告があった事案や問題行動には、全職員で情報共有し合い、学年団や級長、職員、管理職など、多数の大人で対応に当たるようにしている。	B	・引き続き各月ごとの「なかなアンケート」で、担任がクラス内の現状把握を行い、問題行動への早期対応に務めることができた。 ・特に気になる児童に対して、月1回の生活指導協議会や週1回の職員会議の中でもSCやSSWを含む全職員で情報交換を行い、より良い方法を模索しながら取り組んだ。また、保護者と良好な関係性を築き、同じ方向性で指導しよう努力をした。 ・教職員の91%がいじめ防止に組織的に対応できていると認識している。	B	・一部の児童に問題行動があり、先生たちも対応に苦労が大変だが、現在の学校では早期対応・きめ細やかな対応が大切。 ・いじめ防止には早期対応・組織的な対応が求められる。積極的な認知がいじめ対応への第一歩。 ・見られ、ほほえまして感じた。
	●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒70%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・年間を通して全職員で児童の頑張りを認める声掛けを行う。 ・仲間づくり、縦割り班での異学年交流、全校での集会活動等を通してよりよい人間関係の構築を図る。 ・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。 ・キャリアパスポートを計画的に活用する。	B	・ポジティブ行動支援を取り入れ、担当学年に関わらず、全職員が子供たちの頑張りを認め声掛けを行っている。 ・縦割り掃除やのびのびタイムなどの異学年交流を通して縦の繋がりを深めている。また、低学年からの信頼を得たり、自分の役割があることで、高学年の児童の自己肯定感を高めている。	A	・ポジティブ行動支援を取り入れ、担当学年に関わらず、全職員が子供たちの頑張りを認め声掛けを行ったことで、「先生はよいところを認めてくれている」と回答した児童が95%で昨年より高い割合になっている。 ・縦割り掃除やのびのびタイムなどの異学年交流が増え、低学年からの信頼を得て、児童の自己肯定感を高めた。異学年交流で縦の繋がりを深めることができた。また、「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした。「美になる言葉」を覚えていくという取り組みを行い、使ったことができたという児童が増えた。 ・代表委員会では、より良い久里小学校にするためにという議題で話し合い、「スリッパ並べ」「廊下をきれいに」という取り組みを行った。意識してスリッパを並べたり、ゴミを捨てたりして、使いやすい、気持ちがいいと振り返る児童が増えた。	A
●健康・体づくり	○学校全体で取り組むポジティブ行動行動支援全体として居心地のいい学校・学級づくりを目指す教育活動。	○「学校・学級は居心地がいいと思う。」と回答している児童80%以上。	・縦割り活動やボランティア活動を通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。 ・児童の善い行いに気づいた教師・児童が「さくらカード」を書いて掲示したり、全校放送したりすることで児童のよさを認める温かい雰囲気作りをする。	B	・「笑顔になる言葉」を募集し、児童玄関に掲示することにより、あたたかい雰囲気づくりに努めている。 ・全校で時間を守る取り組みを行い、時間を守ることで、スムーズに学習が始められ、意欲的に学習に取り組むことができるという児童が増えた。	A	・代表委員会では、より良い久里小学校にするための行動目標を考えた。全校で「笑顔になる言葉を使おう」「時間を守ろう」「次の人のためにスリッパを並べよう」の取り組みを行い、お互いを思いやる行動をとることができた。 ・児童のよい行いや笑顔になる言葉に気づいた児童や教師がカードに書いて掲示したり全校に知らせたりすることで児童のよさを認める温かい雰囲気作りができた。	A	・笑顔になる言葉を使う取組はいいですね。朝、見守り隊をしてもらって、最近は挨拶の声が大きくなり、気持ちよくあります。大人の方からも元気に挨拶をするようにしています。
	①「運動習慣の改善や定着化」	①休み時間に外遊びをする児童の割合70%以上。	・持久走大会、体力テスト、運動会等の体育の行事において、それぞれの児童がめあてをもつて運動に取り組めるように具体的な運動方法を先生方に共有する。 ・日常的な学校生活での外遊び時間を確保するために、昼休み時間の延長や朝礼前の時間外外遊びができるように見直す。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やす)	B	・本年度の運動会においては、3年生以上の代表委員会においてどのような運動会にしたいかというテーマについて話し合いを行い、児童自身が決定することができた。 この取組により、児童が運動会を自分事として捉え、主体的に考え、取り組み姿勢を育むことができた。 ・昼休みの時間延長を年度当初から実施することができた。また、朝礼前の外遊びについても試行期間を経て、正式に実施することができた。これにより、児童は学校外で遊ぶ時間を確保でき、元気に学校生活を始めることが可能となった。	A	・朝や昼休みに外で遊ぶ時間を確保したことで、外で遊ぶ児童が増えた。また、アンケートでは、授業以外で週間に7時間以上運動している児童が67%であり、昨年より11%増えた。 ・持久走大会では、マラソンタイムの設定もあり、児童が進んで練習に取り組むことができた。 ・各クラスで関する授業をしていたことで、食事の大切さやクーラーに気づいて、児童に考えさせることができた。 ・給食委員が中心となり、毎日の校内放送や食卓・食育の片付けに取り組むことができた。	A	・外遊びが少なると体力低下につながる。社会体育などで頑張る。体を動かして心と身体を全くとる。子どもの二極化が進んでいる。 ・今年度は、昼休みに外で子供たちと走り回っている先生をよく見かけた。外で遊んでいる児童が増えたとう感じした。 ・運動会も家庭でも保護者に気をつけてほしい。学校行事を工夫したり食育を啓発するプリントを出されたり努力されている。
	②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	②「健康に良い食事をしている」児童90%以上	・業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・年間20日の年次休暇のうちの職員1人当たりの年次休暇の取得日数を14日以上にする。	B	・定時退勤日の時間厳守。(金曜日) ・特定の職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。 ・会議の議題表を年度当初に示し、職員の意識を高める。	B	・定時退勤日の徹底だけでなく、若手にも声を掛け続けたところ、働き方改革の意識が高まりつつある。保護者対応等のため定時退勤できない日もあった。 ・業務を精選して煩雑さを軽減し、職員会議の短縮に努め、学級事務の時間を確保している。 ・年間を通じて職員の協力体制を作り、年休を取りやすくし、休息の大切さを伝えた。	A	・学校は努力している。 ・体調を崩す先生の話もよく耳にする。若手を支援しながら、働き方を工夫して、体を壊さないように働いてほしい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教職員の働き方改革の推進	○個人ではゴールと優先順位、組織としては行事の精選と業務の縮減に取り組む。効率化が進んだという職員を70%以上にする。	・校務サーバーを整理し、これまでの文書データを効果的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、諸問題に対してチームとして対応できるようにする。 ・職員会議の短縮に努めた。	B	・各部のリーダーを中心に部会を開き、チームとして行事の計画や授業を分担して進めた。 ・はなまる連絡帳や校務サーバーを活用し、業務の簡素化を進めた。 ・はなまる連絡帳の得意・不得意その都度、担任と話し合い、不得意を支援するグッズやデジタル教科書などの教材を提示したり、保護者と相談し、医療機関や相談機関への受診及び相談、まなびの教室などを紹介したケースが6ケースあった。 ・「言語聴覚士を招請した夏季研修会を行い、学習面の支援が求められる児童への手立てについて学んだ。 ・業務を精選して煩雑さを軽減し、職員会議の短縮に努め、学級事務の時間を確保している。 ・年間を通じて職員の協力体制を作り、年休を取りやすくし、休息の大切さを伝えた。	B	・校内掲示、教材作成、プリントの印刷など校務を整理し、諸問題に対してもチームとして学年で協力しり級長の先生を活用して効率的に作業を進めることができた。 ・これまでの文書データの効果的、効率的な活用のため、校務サーバーの整理を各先生にお願いしていた。	A
●特別支援教育の充実	○共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの充実と環境の整備	○各学期初めに、児童の活動が見える教室環境を整える。 ○家庭や療育施設などと連携し、2学期までに教育支援計画の願いや手立てを考え、必要な支援につなげていく。	・各教室のまなびやすい環境作りを進める。特に特別支援学級においては、仕切り板の活用など個に合わせた環境の設計を行う。 ・個別の支援計画のもとに、必要な支援につなげていく。	B	・「言語聴覚士を招請した夏季研修会を行い、学習面の支援が求められる児童への手立てについて学んだ。 ・業務を精選して煩雑さを軽減し、職員会議の短縮に努め、学級事務の時間を確保している。 ・年間を通じて職員の協力体制を作り、年休を取りやすくし、休息の大切さを伝えた。	A	・保育所等訪問支援で来校されている療育機関の先生に、学級の児童の様子を見ていただき、指導助言を受けた。 ・「個別の支援計画をもとに、必要な支援の得意・不得意に合う補助の作成、振り回し始めを行った。 ・未就学児を含め、医療機関や相談機関への受診及び相談、まなびの教室などを紹介したケースが6ケースあった。 ・児童相互の理解が進むように、保護者の了解を得て、支援学級の児童のことを学級の児童に紹介する時間をもった。	A	・個別のケースに丁寧に対応していただいている。必要に応じて外部の関係機関と連携していただいていることが分かった。これからも研修を重ねてほしい。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○開かれた学校づくり	○地域との連携による学校教育のさらなる充実 ○保護者・地域各機関と連携した児童の見守り。	○授業参観、学校便り、学級通信、はなまる通信等により情報発信を行う。(少なくとも隔週に1回発行する。)	・学校だよりやHP、はなまるメールにより情報発信を行うとともに、地域との交流や地域行事等への協力を行う。	B	・一学期に授業参観を2回実施し、学級通信を随時発行し学校や児童の様子を保護者や地域に広報した。また、毎週学級通信を発行している。 ・はなまる通信では、毎週情報発信・緊急対応の連絡やアンケート、地域との交流や行事等への参加・協力の呼びかけを行った。児童の交流連絡も受けている。 ・学校行事等では、育友会、地区との連携をはかっている。	A	・授業参観・親子レク・運動会などの行事を実施し、学校便りを随時発行し、学校や児童の様子を保護者や地域に広報できた。また、こまめに学級通信を発行している。 ・はなまる通信では「月行事などの情報発信やアンケート、地域との交流や行事等への参加・協力を行った。 ・夏祭り、地区の運動会、久里地区文化祭等地域の行事に参加し、育友会、地区との連携をはかることができた。	A	・学校だよりやHP、はなまるメールにより情報発信していたことに感謝している。地区の行事等への参加・協力をされたいと思われている。 ・今日まで来ていただいた「あがりた集会」の児童の発表の姿に1年間の成長を感じた。1年生から6年生まで素晴らしい表情をしていた。感謝して涙を流している6年生もいた。たくさんの方にこの姿を見てほしかった。
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	・学力の向上では、全学級で授業改善に努めた結果、授業力向上と学力向上につながった。今後も組織的に日々の授業改善に努め、学力向上を図りたい。 ・心の教育では、学校全体で「ポジティブ行動支援」に取り組んだ。児童の自己肯定感を高める取組によりよい人間関係作りの取組、地域と連携した体験活動を更に充実させたい。 ・健康・体づくりでは、外遊びの二極化が見られるため、運動・スポーツの楽しさを味わわせながら、運動習慣を形成していく必要がある。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進では、年間を通して時間外在校等時間の上限を遵守する雰囲気醸成されつつある。今後も業務の見直しを適宜行い、働き方改革を推進していきたい。								